

様式 4

| <p style="text-align: center;">令和 2 年度第 3 回 富士見市環境審議会 議事録</p> | | | | | | |
|---|--|--|--|-----------|----------|----------|
| 日 時 | 令和 2 年 1 2 月 2 日 (水) | | 開会 午前 1 0 時 0 0 分 閉会 午前 1 1 時 4 0 分 | | | |
| 場 所 | 富士見市立市民総合体育館 多目的室 1・2 | | | | | |
| 出席者 | 委 員 | 須田 委員 | 木内 委員 | 中村 委員 | 星野 委員 | 濱野 委員 |
| | | ○ | ○ | ○ | ○ | 欠 |
| | | 守山 委員 | 柳田 委員 | 五十嵐 委員 | 関 委員 | 細田 委員 |
| | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 水村 委員 | 高橋 委員 | 戸塚 委員 | 細田 委員 | 田中 委員 |
| | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 事 務 局 | 環境課 村木環境課長 (途中退席)、齋藤副課長、山田主査、森田主査、田口主任 (計画作的業務委託者：(株) 環境総合研究所 藤本) | | | | |
| 公 開 ・ 非 公 開 | 公開 (傍聴者なし) | | | | | |
| 議 題 | (1) 富士見市一般廃棄物処理基本計画第 3 次計画 (案) について (2) その他 | | | | | |

議 事 内 容

《事務局からの概略説明》

- ・第2回環境審議会でのご意見への回答として、1人1日あたりの家庭系ごみの計算式の追記、ごみ処理経費の最新データの挿入、類似団体との比較グラフの修正、「アフターコロナ」に関する文言の追記、し尿処理施設の施設名称の修正について説明した。
- ・素案第1編第5章から第2編までの説明を行った。

《審議内容》

- 〈委員〉・前回計画に比べ、細かく、非常にわかりやすくなっており、課題も見えてくると感じる。
- ・今回の素案の中では、継続事業と新規事業があるが、継続事業の中には実績が記載されているものとないものとあるので、可能な限り実績を記載してもらえると良いと考える。
 - ・39ページの多量排出事業者に関して、多量排出事業者は認定されるだけなのか、実績報告を提出することになるのか。
- 〈事務局〉・認定されると、計画書を提出することになる。
- 〈委員〉・認定の意味がわかりづらい。その計画は作業計画になっているのではないかと思うが、そうすると61ページの事業系一般廃棄物処理実態調査にもつながるのではないか。多量排出事業者の計画があるようなら、61頁の施策は新規でないのではないか。
- 〈事務局〉・一定の量以上排出したものが多量排出事業者であり、61ページの調査ではそれ以外の事業者も含んでいる。
- 〈委員〉・課題について、具体的にもう少し詰めてほしい。施策はたくさんあるが、具体的な課題がないと感じる。新規施策が増えているが、各署で対応できるのか。また施策への取組が停滞するのではないかと心配している。
- 〈事務局〉・素案には新たな新規事業として、継続している事業以外も入れている。
- 〈委員〉・ペーパーレス化について、市民や市役所が既に行動しているはずである。削減計画があっても良いと思う。コピー用紙、シュレッダーダストは必ずリサイクルしているはずである。削減している実績を示せると、市民もやらなくてはいけないという気になる。リーダーシップを発揮してもらいたい。
- 〈委員〉・実行計画を基にリサイクルしているのか。
- 〈事務局〉・実行計画を基にしている。シュレッダーダストも売却してリサイクルしている。
- 〈委員〉・ペーパーレス化の削減量は調べられるか。
- 〈事務局〉・量的なものは把握可能であるため、実績を示せるか検討する。
- 〈委員〉・支障がなければ、実績があれば良いと考える。
- 〈委員〉・素案全体で、横文字が並んでおり、日本語にならないだろうか。ドギーバッグは持ち帰りバッグにいかえるなど、市民にわかりやすくしてほしい。

- 〈委員〉・第5章で数値目標を出しており、これは国や県の施策に準じているが、達成するのがかなり難しいと考えられる。第1次計画、第2次計画で達成されていない上に、さらに達成を目指さなければならない。そのため、新規の事業を進めていくと達成できるのか、数値化できると良いと思うが、算定可能か。また達成できる見解なのか。
- 〈事務局〉・取組を推進することで、達成に近づけると考えている。
- 〈委員〉・個人が直接業者に持って行った粗大ごみや資源ごみは数値として見えていないはずである。資源ごみについて、回収事業者をもっと協力的に紹介するなどが出来れば良い。新型コロナウイルスの影響でごみが増えている一方で、現れてこない数値がある。直接持って行くごみを数値化できれば良いと考える。
- ・企業は金銭面の理由により、ISOをやめてしまうところが多い。ISOの推進の他に、SDGsの推進を入れて、もっと理解を深めるのはどうか。現在、SDGsを理解している人は20～30%くらいと聞いている。17の目標、169のターゲットの中身もわからない人が多い。事業者、自治体、一般市民にもっと理解してもらいたい。
- 〈委員〉29ページの基本施策（1）環境教育・環境学習の推進は、第2回審議会から入っており、第1回審議会にはなかった。教育委員会との検証結果なども踏まえ、審議委員にキックバックされてこないと困る。今の子どもたちの学校に実施する余裕があるのか。審議会だけでは進められない。
- ・32ページの施策にある家庭ごみの有料化の検討について、第2回審議会まで入っていない。有料化について、その効果等を審議会ですっきりと議論した上なら良いが、原案にいつの間にか入っているのは心配である。
 - ・第2版で内容が増えているが、1版、2版では修正点や質問事項を一覧でもらっていた。しっかり質問の分析をしてほしい。
 - ・ペーパーレス化を盛り込んでいるなら、大きく作り直して郵送するのはどうなのか。大変な労力だとも思うため、もう少しわかりやすく対応して欲しい。
 - ・41ページのシティゾーンにおける産業団地整備事業に係る対応で、産業団地の開発の資料を審議会に示していないので、この施策のアウトラインが見えない。資料をしっかりと提示すべきである。大型の通行車両、建設工事などの影響について説明不足のまま、廃棄物処理基本計画をスタンバイするのはどうなのか疑問に思う。
 - ・42ページのペーパーレス化について、審議会自体でも対応すべきだと思う。
 - ・フードバンクやドギーバッグ、使い切りレシピ、食べきりタイム、ゆずりますコーナーなどはすべて環境課で対応しているのか。廃棄物の基本計画に沿っているのか提示してもらいたい。
 - ・46ページの食べきりタイムと62ページの新型コロナウイルスに関する記述が同じ計画に入っており、論点が一貫していないように感じる。市民生活との一致が読みとりにくい。

- ・新規事業が多く、環境課の業務負担が増える。人員配置も含め、現実的に可能な業務になっているのか。
- 〈委員〉 食べきりタイムは新型コロナウイルスへの対応を考えると、考え直さないといけないかもしれない。
- 〈委員〉 ・多量排出事業者と認定されるような大企業は、SDGsも徹底していると思う。トレンドに遅れないようにと行政が後付けしたニュアンスに見えてしまう。現状の環境施策の徹底を図れば、全体的に項目を集約できて、新規事業を軽減できる。環境教育などを含めても、SDGsを徹底化するのに活かされると思う。
- 〈委員〉 ・29ページの環境教育の施策について、現状を踏まえ検証した結果があれば具体的に説明をお願いしたい。
- 〈事務局〉 ・幼い頃からの環境の意識付け、環境学習の習慣が重要と考え、明記した次第である。
- 〈委員〉 ・今までは環境学習が行われていたか。
- 〈事務局〉 ・今までも行っていたが、今回改めて施策の中に項目として入れた。
- 〈委員〉 ・環境教育の現場の負担はどうか。
- 〈事務局〉 ・それについては確認できていない。
- 〈委員〉 ・校正した部分、大幅に変更したことについて何か説明はあるか。
- 〈事務局〉 ・第2版までは施策の展開が大まか過ぎており、全体が見えていなかったと考え、第3版について取組の内容を詳細に掲載した。
- 〈委員〉 ・新規事業が多くなってしまうと環境課の負担が増えてしまうと思うが、どうか。
- 〈事務局〉 ・新規事業の項目数は確かに増えている。ごみの量が減らない、生ごみの水切りといった大きなものに関して、優先度にもつながるが、計画期間10年でどれだけ取り組めるかということ、例えば生ごみの水切りではモニター制度や地域を区切って徹底的に実施すると1年あるいはそれ以上かかるとみている。その間継続事業についてはどれくらい手がかけるのかという問題もある。相加的とも見えるが、10年というスパンでは、大きな課題を中心に取り組んでいくことになると考えている。
- 〈委員〉 ・シティゾーンについては審議会の中で情報提供はあるか。
- 〈事務局〉 ・情報については、説明会の資料のみであるため、その資料を委員の皆様にお配りした上で、説明会の内容について補足説明させて頂きたい。
- 〈委員〉 ・全てを環境課で実施するわけではなく、委員の皆様や市民の協力が必要であり、基本計画に対して取り組んでいくことになる。
- ・SDGsは持続可能な開発計画ということで、分野は多岐に渡っているが、これから10年間、持続可能な形で、あらゆる行動に目標を持って取り組めたらよい。一般廃棄物処理基本計画では今回、まだそれまで至っていないので、これから入れ方を検討してもらいたい。
- 〈事務局〉 ・SDGsについて1頁に1行記述しているが、行政としても企業が取り組むようなレベルまで至っていないので、どれくらい施策に反映できるのか、掲載方法について検討していく。

- 〈委員〉・SDGsをもう少し積極的に宣伝したらどうか。1ページに打ち出したらどうか。そうすることで、審議会や環境課の努力が市民へ示される。始めの方で打ち出す方が良いと思う。
- 〈委員〉・SDGsについてはすでに盛り込んでいる。SDGsを踏まえてと書いてあるので、あとは各取組にロゴを入れるなど、作り方や見せ方だけである。
- 〈委員〉・行政としてどういうスタンスで考えるのかという事だと思う。
- 〈事務局〉・現在策定作業中の第6次総合計画には、項目ごとの各施策SDGsの目標を入れており、第6次総合計画に倣った書き方も可能である。
- 〈委員〉・SDGsについて、昨年の埼玉県の環境大学で感じたが、富士見市はPRが足りないのではないかと。市民会議で説明の場を設ける、あるいは関心のある人に向けて講習会を実施していかなければいけない。この素案にはSDGsにつながる項目が入っているが、皆わからないのが現状であると思う。SDGsは常識的な内容となってきたので、説明が必要だと思う。
- 〈委員〉・34ページの環境教育教材の一つとして、環境に関するかるた作りに挑戦するのはどうか。児童、生徒にさらに関心を持ってもらえたら良い。保育園は紙芝居があるが、かるたも遊びも環境教育の一環となる。教育機関と連携を取ってチャレンジしてほしい。
- ・2ページの基本計画の下位に位置付けられている実施計画との差が何か分からない。実施計画の移行する時期、またその際の課題は何か。
- 〈事務局〉・実施計画は毎年のごみ処理の方法について細かく記載しているものである。
- 〈委員〉・何年度計画なのか。実施計画は3年や5年が一般的だと思っていたが、今回は毎年度作成するということか。
- 〈事務局〉・実施計画は年度ごとのごみ処理の方法を定めているものである。基本計画は10年間で、5年で見直しを行う。
- 〈委員〉・予算と連動しただけの実施計画になるのではないかと。予算編成と実施計画の作成はどちらが先か。
- 〈事務局〉・基本計画と実施計画は両方とも廃棄物処理法で市町村により定めるものである。基本計画は長い期間で、公開審議により策定する。実施計画は年度最初に公示し、その年度の排出予測や収集形態を定めたものであり、予算的なものによるものではない。
- ・予算編成はこの時期に行っており、3月議会を経て4月1日に公示するのが実施計画である。
 - ・新たな政策に定めるものではなく、どちらかというとならざるを得ない計画であり、毎年ローリング方式というものではない。
- 〈委員〉・予算が編成されたものの中にできているという理解で良いか。予算に合ったものを実施計画として作るのか。
- 〈事務局〉・その通りである。
- 〈委員〉・29ページの(1)環境教育・環境学習の推進だが、子どもたちに対するものであるイメージをもつ。中身を見ると市民に対する意識啓発であり、環境教育・意識啓発に言葉を変えると良いと考える。

- ・(3) 収集・運搬・処分計画は題目であり、何をしていくのかを示していないので、意思表示をした表現にすると良い。
- ・全体的なつくりとして、10年の基本計画なのに、いきなり柱の下に個別事業が並んでいる。10年後もこれだけやるのかというのが見えるのが違和感の元だと思う。例えば44ページでは①②の下に直接事業があるから実施計画に見えてしまう。①②の下に説明文を入れると良い。予算の根拠にもなるし、基本計画としては個別の事業ではなくスタンスを示すのが正しいと思う。

- 〈委員〉
- ・確かにその通りである。言葉の使い方について検討すると良い。
 - ・委員から、中身へのSDGsの入れ方に指摘があったと思うので、構成の検討をお願いします。
 - ・様々な意見があったが大筋は良いと思うため、細かいところをこれから直していけば良い。

以上